



三中だより

2026年2月24日

2月号

調布市立第三中学校

「オリンピックが教えてくれたこと」

校長 児山 友美

連日、熱戦が繰り広げられていた「ミラノ・コルティナ冬季オリンピック」が閉幕しました。世界中からトップアスリートが集まり、それぞれの種目で最高のパフォーマンスを目指して競い合いました。オリンピックを見ていると、「金メダル」や「勝敗」に意識が向きますが、試合後のアスリートたちのインタビューを聞くと、そこに至るまでの「努力」と「あきらめない気持ち」が大切なのだ改めて考えさせられました。オリンピックの舞台に立てた一握りの選手でも、思うような結果が出ない日や、けがに苦しむ日があります。選手たちは、その中で日々の「努力」を何年も積み重ねています。あきらめずに「今できること」に集中してきたからこそ、あの舞台に立てたのだと思います。そして、我々に大きな感動を与えてくれました。学校生活も同じだと思います。テストも、部活動も、行事も、本番は一瞬かもしれません。しかし、その一瞬に向けて、力を伸ばすのは、毎日の積み重ねです。生徒たちも「今」を大切にしながら、自分の未来に向かって歩んでほしいと思います。

そしてもう一つ、注目したいことがあります。それは、どの選手も支えてくれた人への「感謝」の気持ちを伝えていたことです。選手の陰には、選手を支えている多くの人があります。監督、コーチ、審判、道具やユニフォーム等を作る人、調整する人、食事をつくる人、会場を整える人、応援する人……挙げればきりがありませんが、選手たちは、多くの人の支えがあるからこそ、能力を発揮することができるということに感謝しているのだと思います。

話は変わりますが、この度、本校のバスケットボール部が、全国大会のフロアキーパーとして活躍したことに對して、日本バスケットボール協会より「最優秀フロアキーパー賞」をいただきました。協会の代表の方から「フロアキーパーは、ミスがあってはならない大人でも緊張する役割ですが、三中生は、ミスなく完璧にやってくれました。」という褒めの言葉を頂戴しました。裏方への表彰は珍しいものですが、その支えがないと大会は成功しないという感謝の気持ちで今回、新しく設けた賞だということでした。三中生が選手としてだけでなく、大会を支える大切な役割を果たしていることを誇りに思います。そして、これからも互いに支えあう気持ちを大切に生活を送ってほしいと願っています。

2年生 東京校外学習

2月5日(木) 2年生が東京校外学習を行いました。「江戸・東京の文化への理解を深めよう」をスローガンとし昨年12月から事前学習に取り組んできました。班ごとにテーマを決め、なぜそのテーマにするのかを考える、見学可能な施設を調べる、到着までの交通手段を調べる、観覧や昼食に関わる費用を調べ、予算内であるかを確認する、など事前学習を繰り返しそれらを精査して最終的にルートを決定していきました。1年生での校外学習とは違う点も多く、それぞれが責任を持って行動し、その中でも学びを得た一日になったと思います。



大会での活動が評価されました

冒頭でも触れましたが1月4日～8日に開催された「KEIO Jr. Winter Cup」に於いて本校バスケットボール部が最優秀フロアキーパーとして表彰を受けました。競技での大会参加とはまた違った形で評価していただき、今後の競技活動を送るうえで励みになりました。



認知症への理解を深めよう



2月17、24日(火)「調布市地域包括支援センター・ときわぎ国領」職員の方々をお迎えし、3年生生徒を対象に技術・家庭科の授業の一環として出前講座を行っていただきました。「認知症に対する理解を深める」ことを目的とした講座では、認知症が起こる仕組みから、もし身近な人が認知症になってしまった場合に自分ができることを考えるよい機会となりました。